

第 51 回 知的財産管理技能検定
2 級 実技試験
管理業務

(はじめに)

すべての問題文の条件設定において、特に断りのない限り、他に特殊な事情がないものとします。また、各問題の選択枝における条件設定は独立したものと考え、同一問題内における他の選択枝には影響しないものとします。

特に日時の指定のない限り、2025年1月1日現在で施行されている法律等に基づいて解答しなさい。

- 1 ドローンメーカーX社の開発者甲は、複数のドローンによるドローンショー用の発光装置aと、ドローンショーに際してドローン及び発光装置aに特殊動作を行わせる制御装置bと、当該特殊動作に際して複数のドローン間の無線通信に用いる無線通信装置cを備える、新たなドローンAを発明した。X社の知的財産部の部員乙は、ドローンAについて特許出願Pの検討をするために、特許請求の範囲を作成した。

【特許請求の範囲】

【請求項1】 発光装置aと、制御装置bとを備えるドローン。

【請求項2】 発光装置aと、制御装置bと、無線通信装置cとを備えるドローン。

乙が、先行技術調査を行ったところ、発光装置aを備えるドローンについては、既に文献Bに記載されていることが判明したが、その他の構成である制御装置b、無線通信装置cについては、記載された文献を発見できなかった。

以上を前提として、問1～問4に答えなさい。

問1

作成した請求項1及び2の記載について、発明の単一性の要件を満たしていると考えられる場合は「○」を、発明の単一性の要件を満たしていないと考えられる場合は「×」を、選びなさい。

問2

【理由群I】の中から、問1において満たしている又は満たしていないと判断した理由として、最も適切と考えられるものを1つ選びなさい。

【理由群I】

- ア 請求項1に係る発明と請求項2に係る発明は同一の特別な技術的特徴を有しており、発明の単一性の要件を満たしているため
- イ 請求項1に係る発明と請求項2に係る発明は同一の特別な技術的特徴を有しておらず、発明の単一性の要件を満たしていないため
- ウ 請求項1に係る発明と請求項2に係る発明とは発明の作用効果が相違しており、発明の単一性の要件を満たしていないため

問3

乙が特許出願Pの出願書類を作成するに際して、文献Bを明細書に記載する必要があると考えられる場合は「○」を、記載する必要はないと考えられる場合は「×」を、選びなさい。

問4

【理由群Ⅱ】の中から、問3において必要がある又は必要はないと判断した理由として、最も適切と考えられるものを1つ選びなさい。

【理由群Ⅱ】

- ア 明細書の記載要件として先行技術に関する事項を記載することが求められているので、記載する必要があるため
- イ 明細書の記載要件として先行技術に関する事項を記載することが求められているが、特許文献以外の場合は記載することが任意であるため
- ウ 明細書の記載要件として先行技術に関する事項を記載することは求められていないので、記載する必要はないため

- 2 飲料メーカーX社は、自社のブランドである登録商標「アオゾラ」、指定商品「清涼飲料」に係る商標権Mを有している。X社の知的財産部の部員が発言1～2をしている。なお、登録商標「アオゾラ」は、標準文字で記載されたものである。

発言1 「わが社が標章『AOZORA』を付した清涼飲料を製造販売している場合、商標権Mに係る商標登録は、不使用取消審判を請求された場合には取り消されます。」

発言2 「テレビCMやインターネットでの宣伝効果もあり、『アオゾラ』が全国的に有名になりつつあります。わが社で製造販売するすべての清涼飲料に、『アオゾラ』がわが社の登録商標であることを表示しましょう。」

以上を前提として、問5～問8に答えなさい。

問5

発言1について、適切と考えられる場合は「○」を、不適切と考えられる場合は「×」を、選びなさい。

問6

【理由群Ⅲ】の中から、問5において適切又は不適切と判断した理由として、最も適切と考えられるものを1つ選びなさい。

【理由群Ⅲ】

- ア 登録商標と同一ではない商標を使用しているため
- イ 登録商標「アオゾラ」と標章「AOZORA」とは社会通念上同一の商標であるため
- ウ X社の使用行為は、商標権Mの禁止権の範囲内での使用であるため
- エ 登録商標と誤認混同が生じるため

問 7

発言 2 について、適切と考えられる場合は「○」を、不適切と考えられる場合は「×」を、選びなさい。

問 8

【理由群Ⅳ】の中から、問 7 において適切又は不適切と判断した理由として、最も適切と考えられるものを 1 つ選びなさい。

【理由群Ⅳ】

- ア 商標登録の表示がない場合には、商標権の更新をすることができないため
- イ 商標登録の表示がない場合には、商標登録が取り消されるため
- ウ 登録商標が普通名称化することを防ぐため
- エ 商標登録の表示をしなくても、商標の機能に影響はないため

- 3 CM制作会社X社は、家電メーカーY社が新しく発売する空気清浄機のCMの制作をすることになった。X社では、このCM制作に関するアイデアを出し合う会議を開き、イラストレーター甲のイラスト集に掲載されている猫のイラストAの絵柄の利用について検討している。会議に参加したメンバーが発言1～2をしている。

発言1 「イラストAの絵柄をCMに利用したいと思います。このアイデアについてY社の企画会議で承認を得るため、会議用にイラストAを複製した資料を、会議出席者の人数分印刷したいと思います。この場合、著作権の制限規定が働きますので、甲の許諾を得る必要はありませんよね。」

発言2 「イラストAの絵柄をCMに利用することについて、Y社の承認が得られて、甲から利用の許諾も得られた場合、CMで使うためイラストAの絵柄を自由に改変して新たな絵柄を作成することについて甲の同意を得なくても、問題はないですね。」

以上を前提として、問9～問12に答えなさい。

問9

発言1について、適切と考えられる場合は「○」を、不適切と考えられる場合は「×」を、選びなさい。

問10

【理由群V】の中から、問9において適切又は不適切と判断した理由として、最も適切と考えられるものを1つ選びなさい。

【理由群V】

- ア 私的使用のための複製にあたるため
- イ 検討の過程における利用であるため
- ウ 制限規定が適用されないため

問 1 1

発言 2 について，適切と考えられる場合は「○」を，不適切と考えられる場合は「×」を，選びなさい。

問 1 2

【理由群Ⅵ】の中から，問 1 1 において適切又は不適切と判断した理由として，最も適切と考えられるものを 1 つ選びなさい。

【理由群Ⅵ】

- ア 甲の描いたイラスト A に著作権は発生しないため
- イ 甲の同一性保持権を侵害するため
- ウ 甲の複製権を侵害するため

4 問 1 3～問 3 3 に答えなさい。

問 1 3

衣料メーカー X 社は、新たなブランドを始めるにあたり、X 社の創業者である甲の氏名を商標 M として用いることを検討している。ア～エを比較して、X 社の知的財産部の部員乙の発言として、最も適切と考えられるものを 1 つ選びなさい。

- ア 「商標 M について商標登録を受けるためには、知名度にかかわらず甲の氏名と同一の氏名を有する他人すべてに承諾を得る必要があります。」
- イ 「甲は X 社の創業者であり、他人への嫌がらせ等の不正の目的で出願するものでもないので、商標 M について他人の承諾なく商標登録を受けることができる場合があります。」
- ウ 「甲と同じ氏名のデザイナーがいても、甲は X 社の創業者ですので、X 社との間に相当の関連性があることは明らかですので、商標 M について商標登録を受けるために当該デザイナーの承諾が必要な場合はありません。」
- エ 「甲の氏名はありふれた氏及び名前から構成されており、商標 M は普通に用いられる方法で表示するものであるため、識別力がないとして商標登録される場合はありません。」

問 1 4

家具メーカー X 社は、自社が保有する特許発明 P に係る学習機の製造販売を開始した。ア～エを比較して、X 社の知的財産部の部員の発言として、最も適切と考えられるものを 1 つ選びなさい。

- ア 「わが社が S 社に販売した特許発明 P に係る学習機について、S 社が無断で T 社に転売し、T 社が一般消費者に販売していることが判明したので、T 社に、当該販売は特許権侵害である旨の警告をしましょう。」
- イ 「U 社が特許発明 P に係る学習機を無断で製造し、U 社が製造した学習機を V 社が販売していることが判明したので、U 社及び V 社に、当該製造販売は特許権侵害である旨の警告をしましょう。」
- ウ 「W 社は、特許発明 P に係る学習機を無断で販売しています。W 社に対しては、特許発明 P の設定登録前に内容を明示した警告書を送付していますので、警告書の送付後から現在までの W 社の販売行為に対して損害賠償請求が可能です。」
- エ 「特許発明 P は Y 社の先願に係る特許発明を利用していますが、わが社は、特許発明 P に係る学習機の製造販売をすることができます。」

問 15

建材メーカー X 社の建設部材の発明に関する特許出願について、特許庁から拒絶理由通知が發送された。X 社の知的財産部の部員はこの拒絶理由通知への対応を検討している。ア～エを比較して、部員の発言として、最も不適切と考えられるものを 1 つ選びなさい。

- ア 「拒絶理由通知には発明に新規性がないとの指摘がされています。出願当初の明細書では発明の説明が不十分だったので、具体例を追加する補正をしましょう。」
- イ 「拒絶理由通知には一部の請求項だけ拒絶理由がないと指摘されています。まず拒絶理由のない請求項で権利化を図り、他の請求項については分割出願して再度特許庁の審査を受けましょう。」
- ウ 「拒絶理由通知の審査官の認定に納得ができません。発明の内容等を直接説明するため、審査官に面接を申し込みましょう。」
- エ 「拒絶理由通知には『最後』と指摘されています。『最後』と指摘されていない拒絶理由通知より補正の制限が厳しくなることに注意しましょう。」

問 16

大学の音楽サークルに所属する甲は、大学構内のホールで、サークルのメンバー乙と、最近ドラマや CM で流行っている複数の曲を演奏するライブを行うことを計画している。ア～エを比較して、これらの曲の著作権者の許諾を得ずに甲と乙が演奏することができるための要件として、最も不適切と考えられるものを 1 つ選びなさい。

- ア ライブの観客から料金を受けないこと
- イ ライブが営利を目的としないこと
- ウ 曲の著作権者に相当な額の補償金を支払うこと
- エ 甲と乙に報酬が支払われないこと

問 17

文房具メーカーX社は、ボールペンAに係る特許権Pを有し、ボールペンAを製造販売している。X社の知的財産部の部員は、他社が販売しているボールペンを調査したところ、Y社が販売しているボールペンBで特許権Pに係る特許発明が実施されていることが判明したため、差止請求訴訟、損害賠償請求訴訟を提起することを検討している。ア～エを比較して、部員の発言として、最も適切と考えられるものを1つ選びなさい。

- ア 「Y社による特許権Pの侵害における過失の立証責任はわが社にありますので、早急に証拠を収集しましょう。」
- イ 「Y社が特許権Pの侵害の行為により利益を受けているときであっても、Y社の利益の額を損害の額と推定することはできません。」
- ウ 「Y社のボールペンBの販売差止めだけでなく、Y社の倉庫内のボールペンBの廃棄も請求しましょう。」
- エ 「Y社に対する特許権Pに基づく販売差止めが認められた場合、Y社に対して刑事罰の適用はありません。」

問 18

家具メーカーX社が、新しいデザインの椅子Aを開発して販売したところ、たちまち人気商品となった。X社は椅子Aについて意匠登録出願をしていなかったため、椅子A及び椅子Aのデザインを改良した椅子Bについての意匠登録出願を検討している。ア～エを比較して、最も不適切と考えられるものを1つ選びなさい。

- ア 椅子Aと椅子Bとが類似する場合であっても、椅子Aと椅子Bとは同一ではないために、新規性喪失の例外の適用を受けても、椅子Bについて意匠登録を受けることはできない。
- イ 新規性喪失の例外の適用を受けて、椅子Aについて意匠登録出願をする場合には、新規性喪失の例外の適用を受けることができる意匠であることを証明する書面を、意匠登録出願の日から30日以内に特許庁長官に提出しなければならない。
- ウ 新規性喪失の例外の適用を受けて、椅子Aについて意匠登録出願をする場合には、新規性喪失の例外の適用を受けようとする旨を記載した書面を、出願と同時に提出しなければならない。
- エ 椅子Aについて意匠登録を受けるためには、新規性喪失の例外の適用を受けることができるように、椅子Aの販売を開始した日から1年以内に意匠登録出願をしなければならない。

問 19

電子部品メーカーX社と電子機器メーカーY社は、X社が有する特許権Pに関するY社への有償の譲渡契約を締結することを検討している。ア～エを比較して、譲渡契約に関して、最も適切と考えられるものを1つ選びなさい。

- ア 譲渡契約に契約解除について特段の規定が存在しない場合、X社は、Y社の債務不履行が契約及び取引上の社会通念に照らして軽微であるときであっても、催告なしに譲渡契約を解除することができる。
- イ 譲渡契約に特許権Pの移転登録手続の履行期日及びそれに対する対価の支払期日が同日に規定されていた場合、X社は、支払期日が到来しても対価が支払われなければ、特許権Pの移転登録をしない旨を主張することができる。
- ウ X社が履行期日に特許権Pの移転登録手続を拒んだため、Y社は譲渡契約を解除したが、解除により譲渡契約が初めからなかったこととなるため、損害賠償請求をすることはできない。
- エ 譲渡契約に定められた対価の支払期日に支払がされなかった場合、Y社は履行遅滞にあるため、X社はY社に対して催告をしないで譲渡契約を解除することができる。

問 20

精密機器メーカーX社の知的財産部の部員が、製品A及び製品Bに関する社内の各会議に出席している。ア～エを比較して、部員の発言として、最も不適切と考えられるものを1つ選びなさい。

ア 営業部の営業会議での発言

「製品Aが想定している市場は小さく、大きな利益は期待できません。しかし、製品Aに係る特許権を多くの企業にライセンスすることで、新規顧客が増え、市場の拡大を期待できる可能性があります。」

イ 事業部の事業戦略会議での発言

「製品Bの市場はまだ参入企業が少なく、わが社が技術力において他社に先行しています。わが社が多数の製品Bに係る特許権を取得して独占的に実施することで、ライバルメーカーへの牽制と新たな企業の参入防止が期待できます。」

ウ 製品開発部の技術検討会議での発言

「ライバルメーカーY社と包括的なクロスライセンスをした場合、営業活動はしやすくなりますが、一方で、製品設計の自由度が高くなるわけではありません。したがって、クロスライセンスはしないこととしました。」

エ 本社経営戦略室の企画会議での発言

「IPランドスケープを実施して、自社及び他社の技術及び事業の強み弱みを分析したところ、この分野のわが社の知的財産、技術力、及びマーケットシェアは他社よりかなり劣っているようでした。したがって、この事業への参入には慎重になるべきです。」

問 2 1

株式会社東京証券取引所のスタンダード市場に上場している工作機械部品メーカーX社は、独自に開発した新製品である工作機械用の部品Aの製造販売を検討している。ア～エを比較して、X社の知的財産部の部員の発言として、最も適切と考えられるものを1つ選びなさい。

- ア 「部品Aが侵害していると思われる実用新案権を発見しても、当該実用新案権が出願日から9年10カ月経過している場合は、もう2カ月待てば権利が切れるので、その後に製造販売を開始すれば問題ありません。」
- イ 「わが社はコーポレートガバナンス・コードの対象です。しかし、他社の特許権の侵害を避けるための侵害予防調査は、既に特許された発明についてのみ調査すれば十分であり、出願公開された発明すべてを調査する必要はありません。」
- ウ 「部品Aについて製造販売する前に、問合せのあった外国企業へ部品Aに係る技術の内容について情報提供する際に、外国為替及び外国貿易法に基づく許可等の申請が必要となる場合はありません。」
- エ 「部品Aはわが社の特許権で保護されていますので、他社の特許権を侵害するリスクはありません。」

問 2 2

甲は、楽曲Aを作詞作曲し、路上ライブで楽曲Aを歌唱及び演奏した。ある日、甲に無断で、この路上ライブをスマートフォンで撮影した動画が乙によってSNSに掲載されているのを発見した。ア～エを比較して、甲が乙に主張することのできる権利として、最も適切と考えられるものを1つ選びなさい。

- ア 公表権
- イ 同一性保持権
- ウ 録音権・録画権
- エ 譲渡権

問 2 3

家電メーカーX社は、温度制御のプログラムを搭載し、独特な形状である電気ポットAを2年前から販売していたところ、家電メーカーY社が製造した、電気ポットAと機能が同一で形状がそっくりの電気ポットBが輸入販売されていることをインターネット上で発見した。X社は、電気ポットAについて知的財産権を取得するための出願をしていない。ア～エを比較して、X社の知的財産部の部員の発言として、最も不適切と考えられるものを1つ選びなさい。

- ア 「電気ポットAについて、知的財産権を取得するための出願がされていない場合であっても、電気ポットBの販売差止めをすることができる場合があります。」
- イ 「電気ポットBの販売を差し止めるために、できるだけ早急に電気ポットAの形状について商標登録出願ができないかを検討してみましょう。」
- ウ 「電気ポットBの販売を差し止めるために、電気ポットAについて著作権法による保護を受けることができないかを検討してみましょう。」
- エ 「電気ポットBの販売を差し止めるために、電気ポットAについて特許法による保護を受けることができないかを検討してみましょう。」

問 2 4

美顔器メーカーX社の知的財産部の部員甲が、新しく発売を予定している商品Aについて営業部の部長に説明をしている。ア～エを比較して、甲の発言として、最も適切と考えられるものを1つ選びなさい。

- ア 「他社が商品Aを模倣したわけではなく偶然に商品Aと形態が似たような商品Bを発売したとしても、不正競争防止法に基づいて商品Bを排除することができます。」
- イ 「今回発売する商品Aの製品寿命は10年程度だと聞いています。例えば発売から5年後に他社によって、商品Aの形態をデッドコピーされた場合には、不正競争防止法第2条第1項第3号（商品形態模倣行為）によって排除できます。」
- ウ 「商品Aの形態については、意匠法と不正競争防止法により保護を受けることができます。意匠登録をしておけば、商品Aの形態に類似する形態を持つ模倣品を排除することが可能です。また、不正競争防止法の場合には、実質的に同一の形態についての模倣品を排除することができます。」
- エ 「商品Aの形態については、意匠法及び不正競争防止法において、差止請求及び損害賠償請求が可能です。ただし、不正競争防止法の場合には、理由の如何を問わず、刑事上の措置をとることはできません。」

問 2 5

建設コンサルティングX社の知的財産部の部員は、発明Aに係る特許出願について検討している。ア～エを比較して、部員の考えとして、最も適切と考えられるものを1つ選びなさい。

- ア X社のホームページで発明Aを発表した後であっても、発表日と同日に特許出願をすれば、発明Aの新規性は喪失しないと考えた。
- イ X社はアフリカで開催された国際展示会で発明Aを展示したが、海外での開催で他の日本企業の参加がなかったので、発明Aの新規性は喪失しないと考えた。
- ウ 発明Aの発明者が学会発表する前に発明Aが記載された予稿集が公開されたが、学会発表はまだ行われていないので、発明Aの新規性は喪失しないと考えた。
- エ 特許出願前に顧客へ提案するため発明Aについての説明をしたが、その顧客とは秘密保持契約を締結しているので、発明Aの新規性は喪失しないと考えた。

問 2 6

X社は、マンゴーの品種Aを育成し、その品種登録の出願をするにあたって、検討会を開催した。ア～エを比較して、検討会でのX社の担当者の発言として、最も不適切と考えられるものを1つ選びなさい。

- ア 「品種Aについて繰り返し繁殖させた後においても、特性が安定していることの確認が必要です。」
- イ 「品種Aについて、その出願前から存在する他の『マンゴー』の品種から、いわゆる当業者が容易に品種改良できなかったことを確認する必要があります。」
- ウ 「品種Aについて、出願時に国内外で公知の品種から、特性の全部又は一部によって明確に区別できることの確認が必要です。」
- エ 「品種Aについて、その出願前に売れる見込みがあるかどうか日本国内で試験販売をしていましたが、出願日から1年遡った日前に試験販売をしていると品種登録が受けられなくなりますので、いつからその試験販売をしているのか確認が必要です。」

問 27

通信機器メーカーX社は、独自に開発したスマートウォッチAの製造販売を開始したところ、Y社が、スマートウォッチAに係る特許権Pを取得していたことがわかった。ア～エを比較して、X社の知的財産部の部員の考えとして、最も不適切と考えられるものを1つ選びなさい。

- ア 特許権Pの侵害成否の判断は、スマートウォッチAが特許請求の範囲の構成要素をすべて充足しているかを検討し、さらに、均等論や禁反言の原則なども考慮して判断すべきである。
- イ X社に先使用权がある場合には、Y社に対して対価を支払うことによりスマートウォッチAの製造販売を継続することができるので、先使用权の存在について確認すべきである。
- ウ 特許権Pを無効にするための先行技術調査を行うべきである。
- エ 特許権Pについてライセンスを受けられないか、Y社と交渉することを検討すべきである。

問 28

ア～エを比較して、商標登録の対象となる商標に関するX社の知的財産部の部員の発言として、最も不適切と考えられるものを1つ選びなさい。

- ア 「飲食店の前に置かれる立体人形については、商標登録の対象となります。」
- イ 「映画の最初に映し出される変化する文字と図形については、商標登録の対象とはなりません。」
- ウ 「パソコンの電源を入れた際の起動音については、商標登録の対象となります。」
- エ 「特別なレシピにより作られる料理の味については、商標登録の対象とはなりません。」

問 29

X市内の劇場前の広場に、X市出身の芸術家甲が創作したオブジェAが恒常的に設置されている。X市は、オブジェAの写生大会を開催し、そして写生した絵を募集するコンテストを開催し、コンテストで優秀作品に選ばれた絵を撮影して、その画像をX市のウェブサイトBに掲載することを予定している。また、写生大会の様子を撮影した写真をX市のパンフレットに掲載すること及びビデオカメラで撮影した映像をウェブサイトBに掲載することを予定している。ア～エを比較して、撮影した画像、写真及び映像の掲載に関するX市の地域振興課の職員乙の発言として、最も適切と考えられるものを1つ選びなさい。

- ア 「コンテストで募集した絵を撮影して、その画像をウェブサイトBに掲載することについては、募集要項にかかわらず、応募者の許諾を得る必要はありません。」
- イ 「写生大会の参加者の様子を本人が特定できないよう参加者の背後から撮影することや撮影した写真をX市のパンフレットに掲載することについては、被写体になった参加者の承諾が必要です。」
- ウ 「オブジェAは美術の著作物に該当します。写生した絵をコンテストに応募するためにオブジェAを写生することは、オブジェAの複製にあたるので、オブジェAを創作した甲の許諾が必要です。」
- エ 「写生大会の様子をビデオカメラで撮影した際に、写生大会のBGMで流れていた楽曲が短時間録り込まれていました。この場合、撮影した映像をウェブサイトBに掲載することについて、楽曲の著作権者の許諾は必要ではありません。」

問 30

カメラメーカーX社は、AIを用いた新たな画像処理に係る技術Aの開発を行った。X社は、建造物の維持管理システムの開発を行うY社と技術提携をし、技術Aを用いた建造物の損傷箇所自動検知システムに関する共同開発をすべきか否かを社内の各会議で検討している。ア～エを比較して、X社の知的財産部の部員の考えとして、最も不適切と考えられるものを1つ選びなさい。

- ア Y社の特許出願について調査したところ、技術Aに関連する特許も多く出願されていることがわかったので、Y社と技術Aの改良についても共同開発できるか検討すべきである。
- イ Y社との共同開発において生まれた技術について、わが社が単独で特許権を取得することはできないため、共同開発をすべきか否かは今後のビジネス戦略を踏まえて慎重に検討すべきである。
- ウ Y社との共同開発が適切かどうか、IPランドスケープにより、技術的側面や知的財産的側面からだけでなく、ビジネス的な側面からも検討を行って結論を出すべきである。
- エ Y社と共同で特許出願をして特許権を取得した場合、契約で特段の規定を設けない限り、わが社は、Y社の同意を得ることなくその特許権を他社にライセンスすることができない。

問3 1

化粧品メーカーX社の知的財産部の部員甲と部員乙が、意匠権の効力について会話をしている。
ア～エを比較して、最も適切と考えられるものを1つ選びなさい。

- ア 甲 「意匠権の効力の範囲内であっても、意匠権者による登録意匠の実施が制限される場合はありますか。」
乙 「意匠権に専用実施権が設定されている場合には、意匠権者であっても、その設定範囲内では登録意匠の実施が制限されます。」
- イ 甲 「意匠権の効力は、登録意匠と類似する範囲まで及ぶと規定されていますが、意匠の類否は、どのように判断すればいいのですか。」
乙 「当業者が容易に創作できた意匠については登録されないと規定されているので、意匠の類否も、創作者の視覚を通じて起こさせる美感に基づいて判断されます。」
- ウ 甲 「新しく創作したデザインが、他社の登録意匠に類似しています。この新しいデザインが市場で消費者に受け入れられるのかを確認するために、そのデザインを有する製品を製造して試験的に販売することを計画していますが、この製品に他社の意匠権の効力は及びますか。」
乙 「製品を製造して試験的に販売する行為は、『試験又は研究のためにする登録意匠の実施』に該当するため、意匠権の効力は及びません。」
- エ 甲 「意匠権の効力範囲は、登録意匠に係る物品が同一又は類似の範囲で、かつ、その形態が同一又は類似の範囲になりますか。」
乙 「原則はそのとおりです。ただし、均等論の適用により、物品が非類似で、かつ、形態が同一又は類似の場合でも、物品の置換が容易であれば、意匠権の効力が及ぶ場合があります。」

問3 2

自動車メーカーX社の知的財産部の部員は特許情報検索について説明している。ア～エを比較して、部員の考えとして、最も不適切と考えられるものを1つ選びなさい。

- ア I P C（国際特許分類）、F I（ファイル・インデックス）などのコード体系を用いた検索と、キーワード検索には、それぞれ長所及び短所がある。一般的に、より検索漏れが少ないという長所を有するのは、コード体系を用いた検索である。
- イ 「特許情報プラットフォーム（J-PlatPat）」を用いれば、I P C（国際特許分類）とキーワードを組み合わせて特許調査ができる。
- ウ F I（ファイル・インデックス）とFタームはどちらも日本独自の特許分類であり、I P C（国際特許分類）をベースに細分化したものがF Iである。
- エ 特許出願に備えて先行技術調査をする場合、必要な出願書類の作成後に先行技術調査をすると、完全で漏れのない調査が可能になる。

問 3 3

ア～エを比較して、職務発明に関して、最も適切と考えられるものを1つ選びなさい。

- ア X社の従業者甲は、自らした職務発明についてX社に届出をせずに、ライバル会社Y社に対して特許を受ける権利を譲渡する契約を行った。X社の職務発明規程には「職務発明についての特許を受ける権利は予めX社が取得する」旨の記載があったが、当該契約は有効であり、Y社は特許を受ける権利を有する。
- イ X社の従業者だった乙は、1年前にX社を退職した。乙が、X社の業務範囲に属しかつ乙の在職時の職務に関する発明について、X社を退職する2カ月前に自ら特許出願をし、その後特許を受けていた場合、X社は、乙の許諾がなくてもその特許発明を実施することができる。
- ウ X社の従業者だった丙は、現在はX社を退職している。丙が、X社の業務範囲に属しかつ丙の在職時の職務に関する発明について、X社を退職した後に完成させ特許権を取得した場合、X社は丙から当該特許権の譲渡を受ける権利を有する。
- エ X社の従業者丁は、現在、W社に出向しW社から給与の支払を受けて、W社から職務に関する指示を受け、W社の施設及び費用を用いて研究を行っている。丁が、W社の業務範囲に属し、かつ現在の職務に関する発明をした場合、X社の職務発明となる。

5 問34に答えなさい。

問34

上場企業X社は、2022年1月に行った自社の特許出願について2025年7月に特許査定を受けたので特許料を支払うこととした。特許査定時の請求項の数は5である。この場合、特許権の設定登録のためにX社が最低限支払うべき特許料の合計額は何円か、記入例に従って算用数字で記入しなさい。

記入例 50000円の場合は、左詰めで「50000」と記入

特許料		
第 1年から第 3年まで	毎年	4300円＋（請求項の数×300円）
第 4年から第 6年まで	毎年	10300円＋（請求項の数×800円）
第 7年から第 9年まで	毎年	24800円＋（請求項の数×1900円）
第10年から第25年まで	毎年	59400円＋（請求項の数×4600円）

- 6 建材メーカーX社は、新たな建材に係る発明aを2024年5月に完成させたので、2024年8月1日に日本で特許出願Pを行った。その後、X社は、特許出願Pに基づいて優先権を主張して2025年7月1日に国際出願Qを行った。次の会話は、X社の開発者甲と知的財産の担当者乙が、国際出願Qについて会話しているものである。問35～問37に答えなさい。
なお、行政機関の休日については考慮しないものとする。

- 甲 「国際出願Qは、いつ国際公開されますか。」
乙 「国際出願Qは、頃に国際公開されます。」
甲 「国際出願Qについて国内移行手続を行う期限はいつになりますか。」
乙 「国際出願Qの国内移行手続は、1日までにを行う必要があります。」
甲 「国際出願Qでは、発明aについての新規性などの特許要件はいつを基準に判断されますか。」
乙 「発明aについては、1日を基準として新規性などの特許要件が判断されます。」

【語群Ⅶ】

- ア 2024年5月
イ 2024年8月
ウ 2025年7月
エ 2026年2月
オ 2026年7月
カ 2026年8月
キ 2027年2月
ク 2027年8月
ケ 2028年1月

問35

【語群Ⅶ】の中から空欄に入る語句として最も適切と考えられるものを1つ選びなさい。

問36

【語群Ⅶ】の中から空欄に入る語句として最も適切と考えられるものを1つ選びなさい。

問37

【語群Ⅶ】の中から空欄に入る語句として最も適切と考えられるものを1つ選びなさい。

- 7 次の会話は、映画会社X社の広報部の部員甲と法務部の部員乙とが会話しているものである。
問38～問40に答えなさい。

- 甲 「昨年製作して来月に公開する新作の映画Aですが、著作権の存続期間はどのくらいの期間になりますか。」
- 乙 「映画Aの著作権の存続期間は、後70年を経過するまでです。」
- 甲 「もしその期間の間にX社が解散したら著作権はどうなりますか。」
- 乙 「著作権の存続期間中にX社が解散したら、映画Aの著作権の譲渡先がない場合には、映画Aの著作権はことになります。」
- 甲 「映画Aが大ヒットして、DVDとして発売をする場合、出演している俳優にあらためて許諾を得る必要がありますか。」
- 乙 「俳優は実演家ですが、最初の実演の録音・録画を許諾していたら、その後の録音・録画に関して実演家の権利は及ばないとされています。いわゆる主義です。」

【語群Ⅷ】

- ア 創作
- イ 公表
- ウ 映画製作に寄与した者に分割する
- エ 国庫に帰属する
- オ 消滅する
- カ フリーライセンス
- キ ワンチャンス
- ク ワンストップ

問38

【語群Ⅷ】の中から空欄に入る語句として最も適切と考えられるものを1つ選びなさい。

問39

【語群Ⅷ】の中から空欄に入る語句として最も適切と考えられるものを1つ選びなさい。

問40

【語群Ⅷ】の中から空欄に入る語句として最も適切と考えられるものを1つ選びなさい。

【2級実技】

番号 正解

問1 ○

問2 ア

問3 ○

問4 ア

問5 ×

問6 イ

問7 ○

問8 ウ

問9 ○

問10 イ

問11 ×

問12 イ

問13 イ

問14 イ

問15 ア

問16 ウ

問17 ウ

問18 ア

問19 イ

問20 ウ

問21 ア

問22 ウ

問23 エ

問24 ウ

問25 エ

問26 イ

問27 イ

問28 イ

問29 エ

問30 イ

問31 ア

問32 エ

問33 イ

問34 17400

問35 エ

問36 キ

問37 イ

問38 イ

問39 オ

問40 キ